

おはなしシリーズ

13

はなさか じいさん





むかし むかし こころの やさしい おじいさんが
しろい こいぬを かっていました。

「ここほれ わんわん。」

あるひのこと こいぬが ほえるので おじいさんが
はたけを ほると こぼんが たくさん できました。





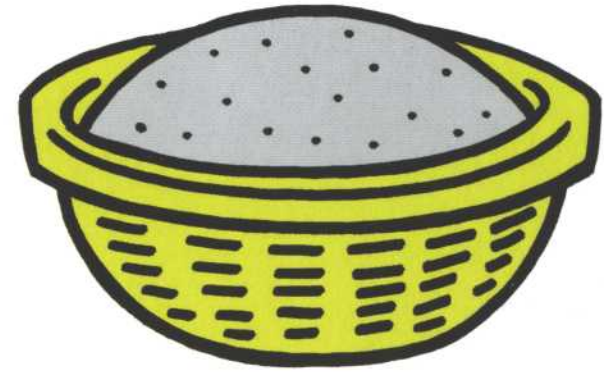
それを みていた となりの よくばりじいさんは
こいぬを むりやり はたけに つれていきました。
こいぬが ないので はたけを ほりましたが
こぼんどころか いしころしか でできません。
「こいつめ わしに うそを おしえたな。」
よくばりじいさんは こいぬを ころしてしまいました。





「なんと かわいそうなことを したもんじゃ。」
おじいさんは こいぬの おはかを つくって
そばに ちいさな きを うえました。
きは すぐに ふとくて おおきな きに なりました。
あるひ おじいさんが きを きって うすをつくり
おもちを つくと おもちが こぼんに かわりました。





それを みていた となりの よくばりじいさん。
さっそく うすを かりて おもちを つきましたが
おもちは ぜんぶ ごみになってしまいました。
「この やくたたずめ。」
よくばりじいさんは うすを もやしてしまいました。
「せっかくの うすが はいになってしまった。」



しかたがないので おじいさんは はいを あつめて
いえに もってかえり にわに まきました。
すると いちめんにはなが さいたのです。



「かれきにはなをさかせましょう。」
おじいさんがそとにでてはなをさかせていると
とのさまがとおりがかりました。
「このはなをさかせたのはじいさまか。
こんなにみごとなはなをみるのははじめてじゃ。」
おじいさんはほうびをどっさりもらいました。





それを みていた よくばりじいさん。
「かれきにはなを さかせましょう。」
とのさまの まえで あつめた はいを まきましたが
はなが さくどころか とのさまは はいだらけ。
「なんと けしからん。この じいさんを とらえろ。」
よくばりじいさんは ろうやに いれられてしまいました。